

令和4～6年度
宮崎大学教育学部
プロジェクト研究報告書

令和7（2025）年3月

研究代表者

宮崎大学教育学部・教育学研究科
学部長・研究科長 戸ヶ崎 泰子

はじめに

宮崎大学教育学部・教育学研究科
学部長・研究科長 戸ヶ崎 泰子

宮崎大学教育学部・教育学研究科は、小学校、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の教員養成及び教員研修というミッションを有している。このミッションを果たすためには、教員に求められる資質・能力に関連する多角的な研究の蓄積が必要である。したがって、本学の教員は各自が設定した研究テーマのもと、様々なアプローチにより研究に取り組んでいる。研究テーマは、基礎研究から応用研究まで実に多彩である。教育の本質に迫ろうとするものもあれば、児童生徒のウェルビーイング向上に関わるもの、各教科の授業づくりに関連する教授・学習に関する理論や方法等の研究、各教科の専門性向上に関わる研究などもある。研究テーマが多彩であるがゆえに、研究者一人一人の研究テーマには関連性が薄いと見えるかもしれない。しかし、研究領域や研究テーマ、研究手法が異なっていたとしても、すべての研究が現代の教育課題の解決を目指している点において共通していると言える。

このような異なる研究領域の研究者同士が、共通のテーマを設定して、教育委員会や地域の学校と連携しながら共同研究を進めているのが「研究プロジェクト」である。2024年度現在、「子どもの貧困と教育」、「学力調査分析・データ解析」、「キャリア教育」、「小規模校の学校づくり・授業づくり」、「読解力」、「学校全体を対象とした積極的行動支援」という6つの研究プロジェクトが、それぞれのペースで活動している。そして、2025年3月4日には、これらのプロジェクトの成果報告会が開催された。テーマや研究手法はプロジェクトごとにそれぞれ異なるものであったが、いずれも興味深い内容であり、学外からの参加者からも大きな関心が寄せられた。

今後の「研究プロジェクト」はどのような進展を見せるだろうか。現在の6つのプロジェクトは決して固定されているものではない。一定の成果を得たプロジェクトは、その知見を学校教育現場に還元するフェーズに移行するであろう。新たな研究テーマに基づくプロジェクトが立ち上がることも容易に想像できる。なぜなら、研究テーマは、時代や学校教育のニーズの変化に即して柔軟に変化するものであり、共通の関心を持つ者同士の自由な議論の中から見出されるものだからである。幸いなことに、宮崎大学教育学部・教育学研究科は、多くの学校や教育委員会から多様な協力を得ることのできる環境に恵まれている。この恵まれた環境のもと、多様な研究者と実践者が集い、議論を重ねることで、現代の教育課題の解決に追究することできるとともに、次世代の学校教育の在り方を提言することができるであろう。今後も多様な研究プロジェクトが立ち上がり、それぞれが研究を推進し、その成果が学校教育の実践に活用されることを期待している。

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

講座等名：特別支援教育 講座

代表者名：若林上総

プロジェクト名	学校全体を対象とした積極的行動支援研究プロジェクト研究
プロジェクト研究概要	<p>学校全体を対象とした積極的行動支援(以下、SWPBS)とは、全ての児童生徒から個別性の高い支援を要する児童生徒までを対象とした階層的支援を実施することを意味する。宮崎県教育庁特別支援教育課では R2 年度より、宮崎市教育委員会学校教育課も R3年度より市内の小・中学校9校に対して SWPBS 導入を図った。プロジェクトメンバーは、それぞれの教育委員会から各校への研究協力を依頼され、指導・助言に当たっている。本プロジェクトは、各校の取組を加速させ、宮崎県内において SWPBS の普及・拡大を図りながら、SWPBSの有効性を検証するとともに、宮崎県・宮崎市の施策立案に寄与する知見を提示する。</p>
実施状況	<p>宮崎県教育庁特別支援教育課では、令和2年度より7校を対象に SWPBS 導入を開始した。県は、学校訪問や研修の実施を通じて各校の取組を支援し、SWPBS の普及を進めるために、推進リーダーの養成を進めた。また、オンライン相談会の開催や、実施校を対象としたアンケートの実施とフィードバックの提供により、学校ごとの進捗を把握しながら支援を行ってきた。</p> <p>宮崎市では、令和3年度から市内の小・中学校9校を対象に SWPBS の導入を開始した。市教育委員会学校教育課は、推進担当者研修や校長対象の研修会を実施し、各校の理解を深めるとともに、先行実施校の成功事例を共有することで導入を促進した。特に、推進リーダーの養成に力を入れ、実施校ごとにリーダーを配置しながら、コーチング体制を整備した。</p>
目的の達成度及び成果	<p>宮崎県では、推進リーダーの専門性向上を通じて、校内支援体制の整備が進み、教師による児童生徒の称賛行動が増加した。その結果、学校風土の改善が確認された。これらの成果を受け、県は教育振興基本計画に SWPBS の推進を明記し、施策としての継続的な支援体制を構築した。</p> <p>宮崎市では、各校でポジティブな学校風土が醸成され、学校風土尺度の得点向上や実行度の向上がデータとして示された。さらに、先行実施校から拠点校を選定し、近隣校への支援体制を強化し、市内での SWPBS の持続的な普及を進める体制が整った。</p>
今後の課題	<p>今後の SWPBS の持続的な実施には、実施校・地域の定着を支える仕組みの強化が不可欠である。教職員の異動に対応し、学校文化として SWPBS を根付かせるための研修や組織的な支援体制の構築が求められる。また、推進リーダーの育成をさらに効果的・効率的に進めるため、拠点校を活用した OJT やオンライン研修の充実が必要である。さらに、第2層・第3層支援を適切に機能させるため、児童生徒の課題を的確に捉え、支援を体系化するフレームワークの開発が求められる。今後は、獲得した研究費を活用し、これらの課題に対応する研修システムや支援モデルを構築し、宮崎県・宮崎市の教育施策と連携しながら、SWPBS の広域的な展開と持続的な発展を目指していく。</p>
備考	

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

学校全体を対象とした 積極的行動支援研究 プロジェクト



若林 上総
高橋 高人
黒木 大輔
半田 健



宮崎県教育庁
特別支援教育課



宮崎市教育委員会
学校教育課



SWPBS導入により期待される成果

「SWPBSは、ポジティブな学校風土を生み出し、すべての児童生徒の向社会的行動と学業達成の成果を高めるように計画された根拠のある支援のシステム (Noltemeyer, et al., 2019)」

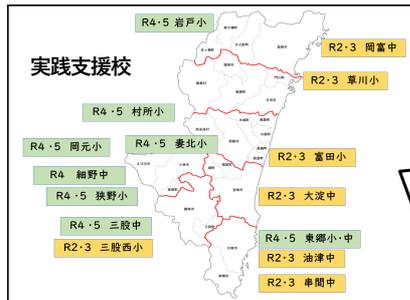


ポジティブな学校風土へ

概要

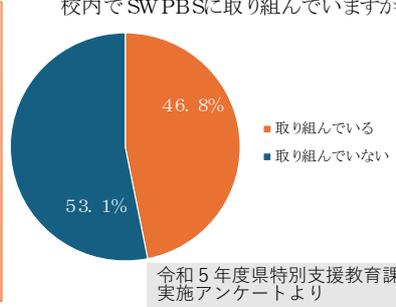
年	宮崎県の動き	宮崎市の動き	大学のかかわり
2019	実践校を指定（4校） 特別支援教育課や県教育 研修センターによる実践 報告、研修開始		県の実践校支援開始
2020	新規に実践校を指定 （7校）		
2021		SWPBS推進を事業化 先行実施校指定（9校）	プロジェクト開始
2022	新規に実践校を指定 （8校）	先行実施校指定 （9校+4校）	県の実践校8校での SWPBS効果検証 プロジェクト報告①
2023	教育振興基本計画に SWPBS推進を明示	先行実施校指定 （9校+4校+5校）	先行実施校での 普及・拡大状況調査 プロジェクト報告②
2024	教育委員会内に PBS推進WG設置	推進リーダー会議設置 先行実施校5校が拠点校に	Webプラット フォーム開設 プロジェクト報告③

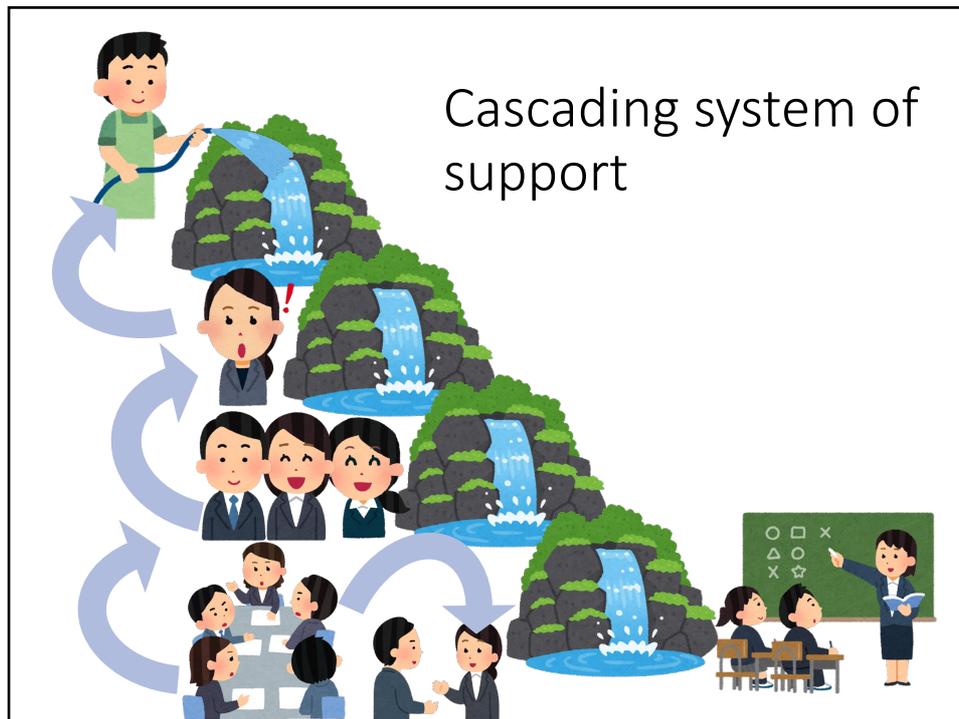
宮崎県との協働



- 宮崎県と連携した実践校支援
 - ・ 県教委の学校訪問、研修の実施
 - ・ 推進リーダーの養成
 - 担当者会の実施（参集・オンライン）
 - オンラインでの相談会
 - ・ アンケートの実施、分析
 - ・ アンケートをもとにしたFB

- 成果（一部は2022年に報告済）
 - ・ 実践校の変容（調査結果から）
 - 推進リーダーの専門性向上
 - 教師の称賛行動の増加
 - 校内支援体制の整備
 - 学校風土の改善
- 県内へSWPBSが普及・拡大
 - ・ 教育振興基本計画にSWPBS推進明示
 - ・ SWPBS推進WGを設置





宮崎県との今後の協働

- SWPBS推進WGにて策定したロードマップに基づき、義務教育課、高校教育課、人権同和教育課、特別支援教育課、各教育事務所、教育研修センターでSWPBS推進
- 実行度を伴うSWPBS推進に役立つリソースの提供
研究課題は...

自治体規模などより広域でのSWPBS導入の影響

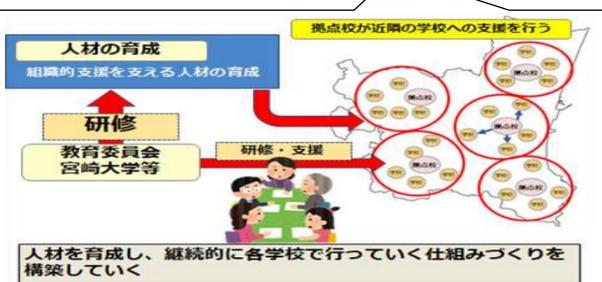
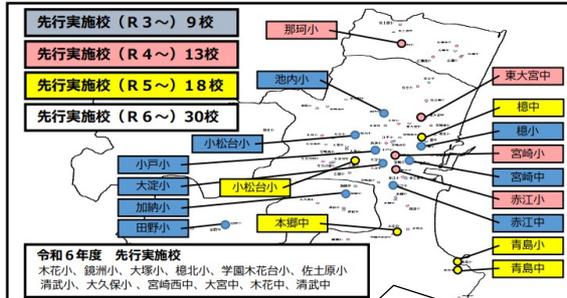
地域での効果的なSWPBS組織マネジメント

SWPBS実施校、実施地域の持続可能性の向上

SWPBS推進を支える人材の効果的、効率的育成

効果的な3層支援構造構築

宮崎市との協働



https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/fs/8/3/0/0/7/5/_/830075.pdf

○研修

- ・SWPBS推進担当者研修
- ・校長対象研修会

○コーチング

- ・先行実施校各校のSWPBS推進チームメンバーとして大学教員が参加
- ・各校推進リーダーと協働

○拠点校化

- ・実行度の高い先行実施校を拠点校化して、近隣の学校支援を実施

宮崎市全体でのSWPBS推進

・仮説1

自治体規模などより広域でのSWPBS導入の影響
 (実行度、学校風土)

対象：先行実施校7校、実施待機校2校の児童生徒

時期：2024年1～3月

尺度：Tiered Fidelity Inventory日本語版 (TFI)

(日本ポジティブ行動支援ネットワーク, 2023)

ーチーム、実践、評価の3領域から学校組織のSWPBS実行度を測定

学校風土尺度 (若林・高橋・半田, 投稿中)

ー学業、コミュニティ、安全の3領域を測定

宮崎市全体でのSWPBS推進

• 仮説2

地域での効果的なSWPBS組織マネジメント

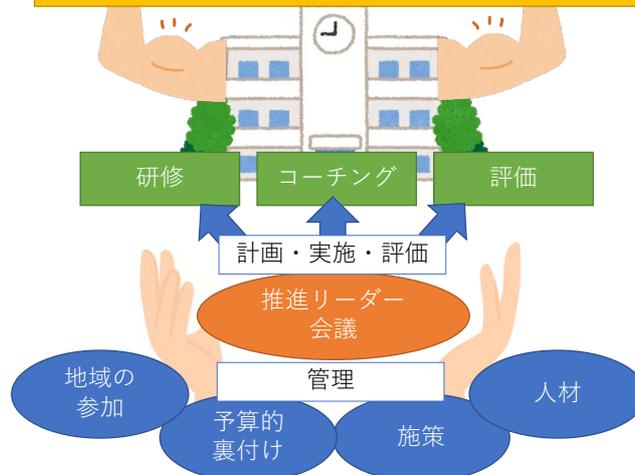
対象：宮崎市教育委員会

時期：2021～2024年度

尺度：市町村規模システム実行度評価指標日本語版
(日本ポジティブ行動支援ネットワーク, 2021)
ーチーム、実践、評価の3領域から学校組織
のSWPBS実行度を測定

宮崎市全体でのSWPBS推進

スクールワイドPBSを導入・実施する市内の小中学校



宮崎市教育委員会HP

宮崎市におけるスクールワイドPBS

2025年1月20日

🗨️ ポスト 0 | 📄 シェアする 0 | 📌 B1ブックマーク 0

概要

宮崎市では、特別支援教育の視点を生かした学校全体で行うポジティブな行動支援に取り組んでいます。

スクールワイドPBS (Positive Behavior Support) とは

児童・生徒が望ましいポジティブな行動を学習することで、相対的に望ましくない行動が少なくなる考えです。学校の実情や課題等を踏まえて行動目標を設定し、全ての児童・生徒を対象に肯定的な指導、支援を行っています。

スクールワイドPBS先行実施校（18校）

宮崎小・小戸小・穂小・赤江小・青島小・江崎小・穂北小・小松台小・田野小・那珂小・加納小・宮崎中・大淀中・穂中・赤江中・青島中・本郷中・東大宮中

<https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/education/school/schools/353945.html>

大学発オンラインプラットフォーム

ブログ



学校全体で取り組むポジティブ行動支援

SWPBSの基礎的知識

研修動画



データ収集・分析



お問合せ



Welcome!

ログイン | アンケート | お問い合わせ | プライバシー

専門知識と実践が融合する、ポジティブ行動支援リサーチ&ラーニング (PBS R&L)



<https://swpbs.vss.miyazaki-u.ac.jp/>



研究費

SWPBS実施校、実施地域の持続可能性の向上

学校規模ポジティブ行動支援の地域実装が及ぼす長期的影響の検討。
宮崎大学教育学部 令和6年度成果配分の評価結果における若手教員の教育研究環境整備及び研究推進加速経費。

SWPBS推進を支える人材の効果的、効率的育成

学校規模ポジティブ行動支援の持続可能性を高める推進リーダー育成研修システムの構築。日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2024年4月 - 2029年3月
若林上総, 半田健, 高橋高人

効果的な3層支援構造構築

児童生徒の課題発見と課題に応じた支援を提供するフレームワークの構築。
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2024年4月 - 2028年3月。
半田 健, 若林上総, 高橋高人

論文・書籍

Nishimura, T., & Wakabayashi, K. (2022). Development of software to record behavioral issues and prediction using bayesian inference. *Information and Technology in Education and Learning*, 2(1), Reg-p002.

若林上総・半田健・田中大善・庭山和貴・大対香奈子 (2023). 学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド. ジアース教育新社.

半田健・若林上総・高橋高人. (2023). 宮崎県の学校規模ポジティブ行動支援 (SWPBS) に関する支援体制の分析-日本語版 *State Systems Fidelity Inventory* による評価. *九州地区国立大学教育系・文系研究論文集*, 10(1), No-8.

若林上総・半田健・高橋高人. (2024). 小中学校への学校規模ポジティブ行動支援の導入を図る市の推進チームの取組—実施初年度から2年間の実行度の推移に焦点を当てて—. *九州地区国立大学教育系・文系研究論文集*, 10(1), No-14.

若林上総・神山努・半田健. (2024). 定時制高校での学校規模ポジティブ行動支援試行までの教職員の同意促進と介入整合性の関連. *発達障害研究*, 46(2), 180-191.

学会発表

半田健・若林上総・庭山和貴・大久保賢一・井上雅彦・石川信一 (2022). スクールワイドPBSの効果的な実装に向けた取り組み. 日本認知・行動療法学会第48回大会 学会企画シンポジウム.

若林上総 (2023). 進路成熟態度を標的とした高校のポジティブ行動支援の試行. 日本特殊教育学会第61回大会 ポスター発表.

半田健・若林上総・庭山和貴・宮木秀雄 (2023). スクールワイドPBS実装の障壁を乗り越える (1) 第1層支援の「探索段階」と「導入段階」における障壁. 日本LD学会第32回大会 自主シンポジウム.

Wakabayashi, K. (2023). Examining the Two-Year Implementation and Outcomes of School-Wide Positive Behavior Support (SWPBS) Tier 1 in a Japanese Elementary School: A Model School Case Study. 4th Asia Pacific International Conference on Positive Behavior Support.

若林上総・半田健・服部和也・平澤紀子・肥後祥治 (2024). 自治体の施策と学校規模ポジティブ行動支援. 日本特殊教育学会第62回大会 自主シンポジウム.

半田健・若林上総・庭山和貴・宮木秀雄 (2024). スクールワイドPBS実装の障壁を乗り越える (2) 教職員の賛同 (staff buy-in)を高める工夫. 日本LD学会第33回大会 自主シンポジウム.

Wakabayashi, K. (2025). Three-Year Evaluation of a City-Level Initiative to Expand Tier 1 SWPBS in Japan. APBS Conference 2025.

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

講座等名： 学校教育 講座

代表者名： 遠藤 宏美

プロジェクト名	小規模校の学校づくり・授業づくり研究プロジェクト
プロジェクト研究概要	宮崎県はもとより全国的に進む学校の小規模校化や学級の少人数化に対し、宮崎県教育委員会・市町村教育委員会と連携して、学校づくり・授業づくりの点から解決方略を探ることを目的とする。また、へき地・小規模校での勤務を念頭においた新たな教員養成プログラムの検討を行う。
実 施 状 況	<p>主な連携先と、実施状況</p> <p>① <u>五ヶ瀬町教育委員会との連携</u>(2020年5月 連携協定締結) 町内全教員が参加する五ヶ瀬教育グランドビジョン全体研修会や授業力向上研究会に参加、町全体で取り組む研究の支援・推進</p> <p>② <u>椎葉村教育委員会との連携</u>(2020年度 連携事業実施) 宮崎県情報政策課「ローカル5G等を活用した地域課題解決実証事業」(2020年度、へき地・小規模校における多様な遠隔教育システムの導入・検証)の成果を活かした、ICT教育の学習基盤整備に関する支援活動</p> <p>③ <u>木城町教育委員会との連携</u>(2022年5月 連携協定締結) 義務教育学校開校(2023年4月)に向けた校内研究の支援や、義務教育学校の教育課程作成への助言、校内研修や授業公開・学校支援訪問等での指導助言</p>
目的の達成度及び成果	<p>主な研究成果</p> <p>【学術論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠藤宏美 (2022) 「体験を通じた学生の学びとカリキュラム・授業との往還ー教育学部教職実践基礎コースと教職大学院における学びの構築ー」『宮崎大学教育・学生支援センター紀要』第6号、pp. 35-44 ・ 小林博典・久木元成行 (2024) 「豊かな Well-being を育むための小学校プログラミング教育の実践と評価」『臨床教科教育学会誌』第24巻第1号、pp. 1-10 ・ 遠藤宏美 (2024) 「『令和の日本型学校教育』の実現のために ～複式学級からのメッセージ～」『中央教育研究所 研究報告』pp. 72-75 <p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉村功太郎・遠藤宏美・渡木秀明・伊集院忠親「学力向上を目指した授業改善の方策とその受容ー自治体の全教員による取組に向けてー」令和5年度日本教育大学協会研究集会 (2023年10月8日) ・ 遠藤宏美・吉村功太郎「学力向上を目指した自治体の取り組みと小中学校教員による受容ー教員の聞き取り調査をもとにー」第8回日本義務教育学会研究大会 (2024年11月9日) ・ 遠藤宏美「地方の学校現場から『令和の日本型学校教育』の実現を考える ～『義務教育学』は何を目指すべきか～」第8回日本義務教育学会研究大会シンポジウム (2024年11月9日) <p>その他、椎葉村立松尾小学校児童2名による、公益財団法人中谷医工計測技術振興財団 2023年度科学教育振興助成成果発表会におけるポスター発表 (2023年12月24日)</p>

今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育委員会との連携拡大・強化（1小1中の小中一貫校・へき地校を有する西米良村教育委員会と2025年度より連携を予定） ○ 学校のニーズに応じた研究と支援（複式学級の増加や教員不足などの課題への対応、ICTの効果的な活用方法の検討） ○ 学校再編とその影響に関する追跡研究（宮崎市、西都市、高原町などが2026年度に再編予定）
備 考	

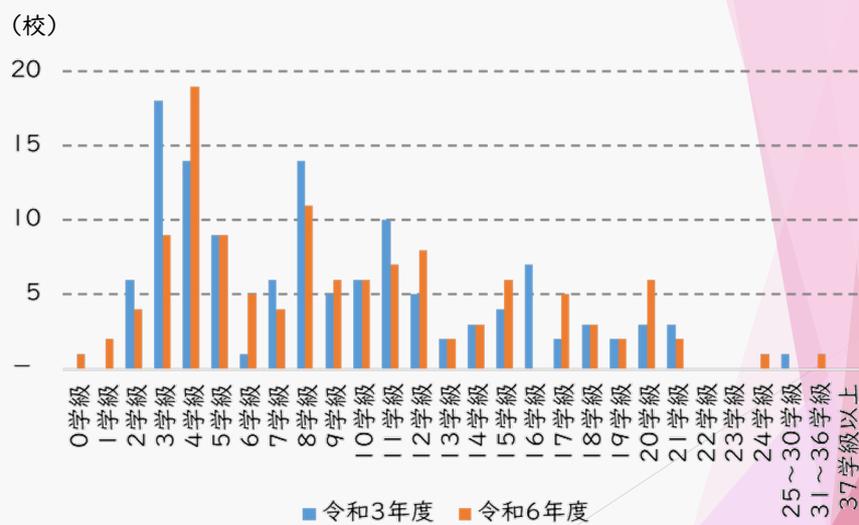
- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

小規模校の学校づくり・授業づくり 研究プロジェクト報告

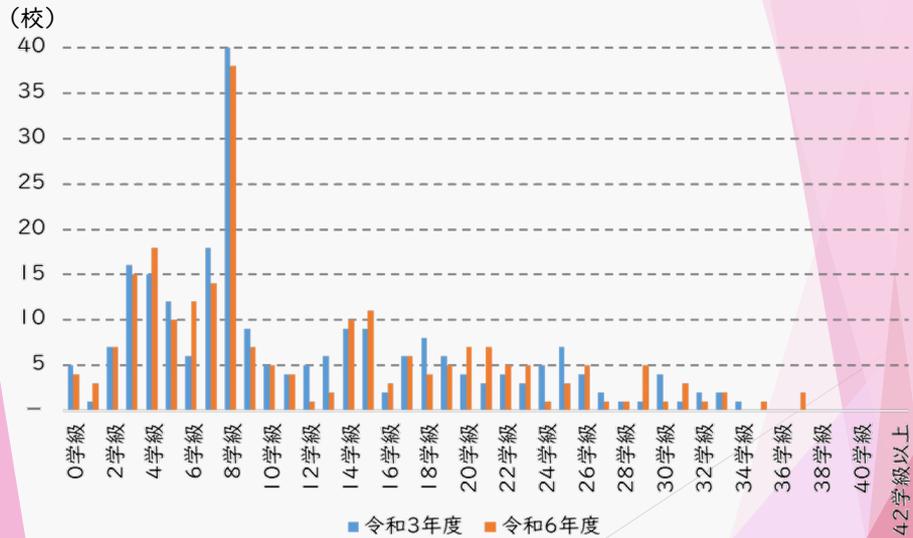
メンバー

遠藤 宏美 (教育学部)	吉村 功太郎 (教育学研究科)
小林 博典 (教育学部)	伊波 富久美 (教育学研究科)
藤本 将人 (教育学部)	竹内 元 (教育学研究科)
藤井 良宜 (教育学部)	

宮崎県の小規模校の現状 (小学校)



宮崎県の小規模校の現状（中学校）



3

小規模校のよさと課題

よさ

- ・ 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導
- ・ 一人ひとりの発言や発表の機会が多い

課題

- ・ 児童生徒同士の多様な意見の交流・切磋琢磨の機会が少ない
- ・ 児童生徒の人間関係が固定化しやすい
- ・ 教職員一人当たりの校務負担等が過重
- ・ 複式学級では教材研究や授業準備等の負担が大きい

新規採用教員や臨時的任用教員が小規模校に赴任する可能性
 ⇒ 小規模校化や学級の少人数化に対し、学校づくり・授業づくりの点から解決方略を探る

4

研究課題

竹内元・小林博典・藤本将人・吉村功太郎・遠藤宏美
「宮崎県における小規模校の学校づくりに関する基礎的研究」
『宮崎大学教育学部紀要』第95号、2020年、pp.202-218

① 小規模の小中一貫校（義務教育学校）における学び

「宮崎県における小中一貫校は、ほとんどが1学年1学級の小規模校（略）1学年1学級であることがどのような学びを保障し、どのような学びの困難をもたらしているかに迫る必要」

② 自治体内での交流学习の位置づけ

「町村全体がへき地指定を受けており小規模校である西米良村、諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町では、交流学习をどのように位置づけているかを検討する必要」

③ 複式学級の在り方やへき地校における授業研究

「宮崎県における複式学級を有する学校数は、減少傾向であるが、割合に変化がない。各学校が複式をどのように解消しているのか（略）特に、町村全体がへき地指定を受けている西米良村と諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町では教職員の配置の在り方や授業研究をどのように位置づけているかも含めて検討を加えたい」

5

教育委員会との連携

★ 五ヶ瀬町教育委員会（2020年5月 連携協定締結）

- * 未来投資型宮大生による五ヶ瀬の教育充実プログラム推進事業（学生による教育活動支援、オープンスクールを活用したへき地教育・小規模校体験、大学院生の担任体験等を含む）

★ 椎葉村教育委員会（2020年度 連携事業実施）

- * 宮崎県情報政策課「ローカル5G等を活用した地域課題解決実証事業」の一環として、椎葉村教育委員会と協働して教育分野の事業に参画し、へき地・小規模校における多様な遠隔教育システムの導入・検証

★ 木城町教育委員会（2022年5月 連携協定締結）

- * 義務教育学校における木城町ならではの小中一貫プログラム策定に関する連携事業

6

五ヶ瀬町における研究

町内全教員が参加する五ヶ瀬教育グランドビジョン全体研修会や授業力向上研究会に参加、研究を支援・推進

→ 学会発表

- ★ 吉村功太郎・遠藤宏美・渡木秀明（五ヶ瀬町教育長・当時）・伊集院忠親（坂本小学校教頭・当時）「学力向上を目指した授業改善の方策とその受容－自治体の全教員による取組に向けて－」令和5年度日本教育大学協会研究集会（2023年10月8日）
- ★ 遠藤宏美・吉村功太郎「学力向上を目指した自治体の取り組みと小中学校教員による受容－教員の聞き取り調査をもとに－」第8回日本義務教育学会研究大会（2024年11月9日）

☞ 読解力研究プロジェクトの成果報告もご参照ください。7

椎葉村における研究

ICT教育の学習基盤整備に関する支援活動（2021年度～）

2023年度：松尾小学校3・4年生の複式学級でプログラミング教育の教材開発と授業実践

- ★ ポスター発表（児童2名）
公益財団法人中谷医工計測技術振興財団 2023年度科学教育振興助成成果発表会（2023年12月24日）
- ★ 論文（査読あり）
小林博典・久木元成行（2024）「豊かなWell-beingを育むための小学校プログラミング教育の実践と評価」『臨床教科教育学会誌』第24巻第1号、pp.1-10

2024年度：大河内小学校の総合的な学習の時間で、プログラミングの授業実践と、大学生による授業支援

→ 宮崎県へき地研究大会で紹介

木城町における研究

連携協定締結以前から、義務教育学校化に向けた校内研究の支援や、義務教育学校の教育課程作成への助言等

2022年度：義務教育学校開設準備委員会への参加
学校運営協議会等の参観

2023年度：開校式典・授業等の参与観察
主題研究への参加・支援（延べ14回）
授業公開での指導助言（吉村・小林・遠藤・興津）

2024年度：職員研修での講話、参観
学校支援訪問での指導助言（吉村・添田・遠藤・中村）
学校運営協議会等の参観

9

今後の展望・課題

○ 教育委員会との連携拡大・強化

→ 2025年度 西米良村教育委員会との連携（予定）
（1小1中の小中一貫校・へき地校）

○ 学校のニーズに応じた研究と支援

→ 複式学級の増加や教員不足といった課題
→ ICTの効果的な活用方法の検討

○ 学校再編とその影響に関する追跡研究

→ 宮崎市、西都市、高原町などが2026年度に再編予定

10

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

講座等名： 数学教育 講座

代表者名： 添田 佳伸

プロジェクト名	読解力研究プロジェクト報告
プロジェクト研究概要	<p>読解力低下に対する警鐘を受け、令和2年度から読解力研究をスタートさせた。各教科において読解力がどのように捉えられているか、各教科において読解力に関する研究はどのようになっているかを検討した。国語、社会、数学、理科を手始めとして教科としての取り組みを行い、教科の拡充を行った。また、学校現場での具体的な取り組みとして、五ヶ瀬町教育委員会が取り組んでいる論理的思考力を育む指導を連携して行った。この取り組みは、継続的に続けている。</p>
実 施 状 況	<p>○先行実施(令和2年度～令和3年度))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において読解力がどのように捉えられているか、読解力に関する研究はどのようになっているかについて、国語、社会、数学、理科の4教科からスタートさせた。 ・令和3年2月19日にオンラインでシンポジウムを開催した。 ・学校現場との連携の一環として五ヶ瀬町教育委員会と連携して取り組みを行い、その進捗状況の報告と教科ごとの研究の進展の報告の機会として令和3年12月9日にシンポジウムを開催した。 ・新たに音楽の立場から読解力についてシンポジウム(令和4年3月8日開催)で報告し、教科の枠を広げた。 <p>○本実施(令和4年度～令和6年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五ヶ瀬町教育委員会との連携を継続し、論理的思考力の育成に向けて取り組んだ。 ・五ヶ瀬町教育委員会との連携として、夏季全体研修会(令和5年7月28日実施)、授業力向上研究会(令和5年10月30日開催)、冬季全体研究会(令和5年12月21日開催)、授業力向上研究会(令和6年11月13日開催)、冬季全体研修会(令和6年12月23日開催)で協力した。 ・教科固有の読解力について、国語教育の立場から、ミニシンポジウム(令和6年3月19日開催)で、第4の読解力について協議を行った。
目的の達成度及び成果	<p>読解力をA、B、Cの3つのタイプに分けることにより、課題を明確に捉えることができるようになった。この視点から各教科において読解力がどのように捉えられているかを見たところ、多くの教科において読解力Cに当たるPISA型読解力が求めている論理的思考(論拠に基づく結論の主張)の重要性が確認された。</p> <p>また、五ヶ瀬町教育委員会が取り組んでいる論理的思考力の育成に対して、研究会等での講演や指導助言を通して、授業改善や授業力向上等の取り組みに対し貢献することができた。</p>
今 後 の 課 題	<p>教科固有の読解力や教科の枠を超えた読解力についてはまだ十分に検討ができていないので、さらなる追究を行う必要である。また、更なる教科の拡充が必要である。教育委員会との連携については、今後も継続して連携協力し、授業改善等を通して、児童生徒の論理的思考力育成に資するように貢献していきたい。</p>
備 考	

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
 2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

読解力研究PJ 報告

添田佳伸

教育学部研究プロジェクト報告会 2025. 3. 4

本研究PJの研究方針と研究の流れ

- ▶研究の背景－読解力低下に対する警鐘
 - PISA2018において、読解力が11位まで下がった。
 - 新井紀子「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」が出版。(2018年)
- ▶研究の出発点－「読解力」の概念規定と先行研究（R 2年度）
 - 各教科において、読解力はどのようにとらえられているか。
 - 各教科において、読解力に関する研究はどのようにになっているか。
 - 手始めとして、国語、社会、数学、理科から始めた。(永吉, 吉村, 添田, 野添)
 - 読解力シンポ開催 (オンライン) R3. 2. 19
- ▶教科の拡充－音楽に広げた。(R 3年度)
 - 読解力ミニシンポ開催 R3. 12. 9 (永吉, 吉村, 渡木)
 - 読解力ミニシンポ開催 R4. 3. 8 (菅)

研究の流れと方向性

- ▶教科固有の読解力，ならびに教科の枠を超えた読解力を検討していく。
- ▶五ヶ瀬町教育委員会との連携（R4年度）
 - 学校現場のニーズに応じていく。
 - ☆教育実践のフィールドから（五ヶ瀬町）
- ▶教科固有の読解力（R5年度）
 - 第4の読解力の出現？（自分への影響や反応まで考える力）
 - 読解力ミニシンポ開催（永吉） R6.3.19

読解力の概念規定

- ▶永吉先生の整理（国語教育の立場から）
 - 文章を読んで理解する能力：「読解力A」
 - 書かれていないことを推論する力：「読解力B」
 - PISA型読解力：「読解力C」
 - （自らの目標を達成し，自らの知識と可能性を発達させ，効果的に社会に参加するために，書かれたテキストを理解し，利用し，熟考し，これに取り組む能力）
- ▶概念整理
 - 「読解力C」は，これまで学校の国語科を中心に行われてきた「読むこと」という意味で用いられてきた読解力の意味とは異なる。本研究PJは「読解力C」を軸に研究を進める。

読解力の概念規定

➤ 「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」

（平成17年10月26日 中央教育審議会）

「（2）教育内容の改善 イ 学習指導要領の見直し」

- 国語力はすべての教科の基本となるものであり、その充実を図ることが重要である。
（なお、この答申の本文において「国語力」についての概念的な説明はなされていない。読解力という用語は、国際調査の結果に課題があるという記述の箇所に出てくるのみである。）

読解力の概念規定

➤ 「これからの時代に求められる国語力について（答申）」

（平成16年2月3日 文化審議会）

• 国語力のとらえ方

- ① 考える力、感じる力、想像する力、表す力から成る、言語を中心とした情報を処理・操作する領域
- ② 考える力や、表す力などを支え、その基盤となる「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」の領域

国語教育における読解力

- 「読解力A」を身につけることが要求されている
- 言葉を言葉通りに受け取るだけでは、たとえ正確な理解であっても、それは「読解」とは言わない。
- 言葉から想起させる情動があって初めて「読解」が始まる。
- その情動の想起は、知識や日常生活をもとに、情景をイメージできる（言葉の裏、行間を読む）かどうかにかかっている。

(永吉)

国語教育における読解力

➤RST (Reading Skill Test) とPISAの間にある読解力

- 言語化されていない部分や資料について、共通理解に近い状態で言語化すること。
- 言語化されているものについても、共通理解に近い形で説明されうること。

➤文字テキストの読解力とは

- 他者意識がもてるかどうか。



- 他者が納得し得るように説明できること。
- 図示（図式化）できること。

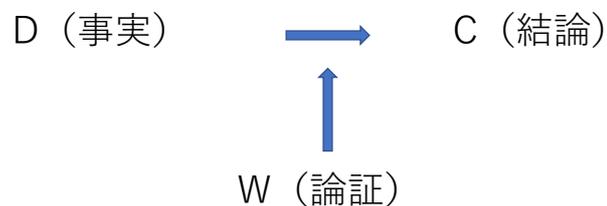
社会科教育における読解力

- ▶ 社会的事象から学習の問題を見出して追究・解決し，社会的な見方や考え方を深め，自らの社会生活に生かしていくために社会的事象から必要な知識（情報）を読み取り，それをもとにしながらか社会的事象の特色や相互の関連，社会的な意味，今後の在り方などを熟考する能力。
- ▶ テキストのタイプ
解説，記述，物語，書式，表，図，図・グラフ，地図
- ▶ テキストの形式
連続型，非連続型

（吉村）

社会科教育における読解力

- ▶ トゥールミン図式



事実を理由に結論付けるだけでは不十分。論証（論拠）が必要

理科教育における読解力

- ▶理科で問われる問題は、一般的に、連続型テキストと非連続型テキストの混合型テキストで構成されている。
- ▶テキストの中の情報を探し出し、理解し、評価し、熟考する。
- ▶事実（実験結果）をもとに、理由付け（科学的な原理・法則）にしたがって主張する。

事実



主張

理由付け

(野添)

数学教育における読解力

- ▶読解力は問題解決能力の一部。
- ▶多様な読み方ができ、文脈にふさわしい読み方ができる。
- ▶多様な表現方法ができ、相互に翻訳（変換）ができる。
言葉、数、式、図、表、グラフ、操作的表現、現実的表現
- ▶批判的思考と関わる。

(添田)

式の読み方

- 式からそれに対応する具体的な場面を読む。
- 式の表す事柄や関係を一般化して読む。
- 式に当てはまる数の範囲を，例えば，整数から小数へと拡張して，発展的に読む。
- 式から問題解決などにおける思考過程を読む。
- 数直線などのモデルと対応させて式を読む。

(小学校学習指導要領解説算数編 H29 p.48)

音楽科教育における読解力

- 音楽は，非テキスト型かつ連続型である。
- 音楽における読解とは，特定の文脈や実践的な目的との関係の中で，響きに対する一次知覚・感受をコアとしながら，多様な知識を連合する解釈の生成である。
- 作者の権威や普遍性，隠喩的意味の了解によって成り立つ「硬い読解」と，実践者の遊戯や一回性，換喩的意味の拡張によって成り立つ「やわらかい読解」がある。
- 伝統的意味や価値の理解の上に立つ，再創造型教育実践の開発が課題である。

(菅)

五ヶ瀬町教委の取り組み (渡木教育長の発表をもとに吉村先生が構成R3)

◆論理的思考力を育む指導～説明力・作文力向上に向けて～

□実践：日々の授業で「説明（発表）の型に慣れさせる」

□説明（発表）の型で重要となるポイント（3つ）

① 注目した事実

問いを解くにあたって根拠にする部分



② 事実をもとに考えたこと



③ 考えた結果出した答え

・ 問題の解決につながる事実(情報) を見つけて述べる。

- テキスト(教科書や資料等)にかかれてあること
- みんなで記憶している共有できる体験
- × 憶測や個人の経験や感想

・ 事実をもとに、これまで学習したことなどを使って「浮かんだ考え」や「考えた道すじ」などを整理して述べる。

・ 整理した考えから導かれた自分の 答え(結論) を述べる。

□事実（教材・資料）には連続型テキストと非連続型テキストがある

五ヶ瀬町教委の取り組みについての考察 (吉村)

◆総合的な問題解決能力を意味するPISA型読解力に近い考え方

□文章の読解といった狭い意味での読解力に留まらない

* 五ヶ瀬町教委の取り組みは「読解力」とは銘打っていない

◆論証モデル（トゥールミンモデル）の基本的な考え方とほぼ同じ

□説明（発表）の型で重要となるポイント（3つ）

①事実 ②論理的思考 ③結論・主張

□トゥールミンモデル

①事実(Data) ②論証(Warrant) ③主張・結論(Claim)

* 五ヶ瀬町教委の取り組みでは、トゥールミンモデルを参考にしたわけではなく、これまでの教育活動の中からこれら3つのポイントを導き出してきている。

五ヶ瀬町教委の取り組みへの関わり（吉村，永吉，遠藤）

◆R5年度（主な機会）

- ①令和5年度GV（五ヶ瀬グランドビジョン）夏季全体研修（2023.7.28）
授業研究事例として小学校の先生から示された社会科授業実践についての分析コメント
- ②五ヶ瀬町立学校 授業力向上研究会（2023.10.30）
「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の基盤
－思考力，判断力，表現力を中心に－」
- ③令和5年度五ヶ瀬教育グランドビジョン 冬季全体研修会（2023.12.21）
「論理的思考，問いとまとめ」
授業事例や先生方の協議から上がった質問などに対する吉村先生からのコメント

五ヶ瀬町教委の取り組みへの関わり（吉村，遠藤）

◆R6年度（主な機会）

- ①五ヶ瀬町立学校 授業力向上研究会（2024.11.13）
授業の構造化と論理的思考力をはぐくむための実践的な指導方法等についての協議をふまえてのコメント
- ②令和5年度五ヶ瀬教育グランドビジョン 冬季全体研修会（2024.12.23）
「論理的思考力についての一つの捉え方 これまでの五ヶ瀬町立学校の取組について」と題しての講演（吉村）

「学力向上を目指した自治体の取り組みと小中学校教員による受容
－教員の聞き取り調査をもとに－」（遠藤）
* 遠藤先生の講演は小規模校の学校づくり・授業づくり研究プロジェクトに位置付くかと思えます。

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

講座等名： 学校教育 講座
代表者名： 椋木 香子

プロジェクト名	キャリア教育研究プロジェクト
プロジェクト研究概要	宮崎県におけるキャリア教育の充実・推進のために、宮崎県教育委員会と連携した研究発表大会を実施し、そのための指導助言にかかわることを目的とする。また、附属中学校で実施している総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の取り組みについて、研究上の指導助言を行う。
実 施 状 況	<p><u>令和4年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日南市立鶴戸小中学校 県指定キャリア教育推進校の研究支援(指導助言)の実施(8月19日、9月9日研修会講師)。 ・宮崎大学教育学部附属中学校令和4年度公開研究会(令和4年 11 月 15 日) キャリア教育と関連させた道徳科の教材開発及びカリキュラム・マネジメントに関する指導助言。 ・宮崎県キャリア教育実践発表会(宮崎県教育委員会主催)を本学部・研究科・学部附属教育協働開発センター共催で実施(令和5年2月9日、宮崎大学創立330記念交流館コンベンションホール)。県内全小中学校にオンライン配信。講評は椋木が実施。 <p><u>令和5年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・細野小学校・中学校合同研修で「キャリア教育の視点を踏まえた授業改善」の講話及びワークショップを椋木・盛満で実施(8月2日)。 ・前年度まで実施してきた附属中学校のキャリア教育の一環として行った道徳科の教材開発及び総合的な学習の時間との関連を図ったカリキュラム・マネジメントについて、日本道徳教育学会第102回大会シンポジウムで発表(令和5年9月16日)。 <p><u>令和6年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・細野中学校で研修を実施(8月5日、10月17日)。 ・令和6年11月6日細野中学校研究公開 講評・講話「キャリア教育の視点を踏まえた学力向上の取り組みについて」(椋木)
目的の達成度及び成果	<p>令和4年度には宮崎県教育委員会と連携した研究発表大会を実施した。また、それに関わって、宮崎県や小林市の研究推進指定校への指導助言を行った。附属中学校でのキャリア教育実践に関わって、道徳科の教材開発とカリキュラム開発を行い、その成果を学会シンポジウムで発表したり、学会誌に論文として掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂口瑞穂「キャリア教育と関連した道徳科の教材開発・実践」日本道徳教育学会第102回大会シンポジウム「他教科等の関連を図った道徳科に関わる実践と今後の展望」宮崎大学、令和5年9月16日。(日本道徳教育学会編『道徳と教育』第343号(2024年)に大会報告として概要を掲載) ・椋木香子「道徳教育はキャリア教育にどう応えるかー課題と可能性ー」日本道徳教育学会編『道徳と教育』342号、113-122頁、2023年3月。(依頼論文・査読あり)
今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県のキャリア教育推進事業の連携について、県と協議しながら対応を再開する。 ・キャリアパスポートの活用が進んでいないので、附属学校と連携し、研究に取り組んでいく。
備 考	

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

令和6年度学部・研究科研究プロジェクト報告
2025年3月4日（火）14：00～15：30
第一会議室

キャリア教育研究 ユニット報告

ユニットメンバー

椋木香子・盛満弥生・遠藤宏美・竹内元・藤本雅人

令和6年度 キャリア教育研究ユニット 活動の概要

- 令和4年度で宮崎県のキャリア教育推進事業が一旦終了したため、県との連携事業は本年度も行われていない。
- 附属中でのキャリア教育を軸としたカリキュラム・マネジメントについても、昨年度よりテーマ変更となっている。
- 大学院の必修講義「教科外活動の構成と展開・評価と課題」において、平成27（2015）年度からキャリア教育に関する内容を取り扱っている。
- 小林市のキャリア教育の研究指定を受けた細野中学校区への指導助言を昨年度から今年度にかけて行った。

学校現場におけるキャリア教育に関する 現状と課題

- キャリア教育に関する基本的知識の周知が十分でなく、単なる職業教育や職場体験で捉えられている場合も今だに多い。
- 実践例として、地域と連携した教育活動が紹介されることが多いため、ふるさと学習と混同されている場合も多い。
- キャリア教育で育成が求められている資質・能力についての理解が十分でなく、単なる活動に終わっている。
- キャリア教育の推進はカリキュラムの見直し（カリキュラム・マネジメント）を含むため、学校内での推進が難しい。



大学院授業でのキャリア教育についての周知
各学校レベルへの支援

大学院必修講義「教科外活動の構成と展開・ 評価と課題」におけるキャリア教育に関する 講義について

- 平成27（2015）年度からキャリア教育に関する内容を取り扱っている。
- ここ7年ほどは実地指導講師を招いて、実際的な内容を紹介している。

西都市立妻中学校校長 伊東泰彦氏

宮崎県教育センターで県のキャリア教育を推進

日之影中学校校長在職時に、地域と連携した独自のキャリア教育を実施

現在はふるさと学と関連させた系統的・総合的なキャリア教育を実施

大学院必修講義「教科外活動の構成と展開・評価と課題」におけるキャリア教育に関する講義について

- 学習指導要領の改訂に伴い、特別活動がキャリア教育の要と位置付けられたことから、特別活動の回にキャリア教育について解説。「キャリアパスポート」についても本講義で取り扱っている。

細野中学校区（小林市）へのキャリア教育研究推進に係る指導助言

- 令和5年度8月に細野小学校・中学校合同研修で「キャリア教育の視点を踏まえた授業改善」の講話及びワークショップを椋木・盛満で実施
- 令和6年度は細野中学校で数回、研修を実施
- 令和6年11月6日細野中学校研究公開
講評・講話
「キャリア教育の視点を踏まえた学力向上の取り組みについて」
(椋木)

細野中学校区の取り組みの特徴

教科教育におけるキャリア教育

子どもと作るキャリア教育

教科外活動・日常指導におけるキャリア教育

7

細野中学校区の取り組みの特徴

教科教育におけるキャリア教育

基礎的・汎用的能力を通常の授業の中に位置付け
＝通常の中でどのような基礎的・汎用的能力が
育成されているかを明確にする

文部科学省（2023）「中学校・高等学校キャリア教育の手引き－中学校・
高等学校学習指導要領(平成29年・平成30年告示)準拠－」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

能力	細野小・中
人間関係形成・社会形成能力	かかわる力
自己理解・自己管理能力	ふり返る力
課題対応能力	やりぬく力
キャリアプランニング能力	見とおす力

8

細野中学校区の取り組みの特徴

子どもと作るキャリア教育

目的の共有
子どもと一緒に
カリマネする

学校での学習の意義を確認
学習の目標の共通理解
(=キャリアプランニング能力の育成)



学びの主体化

学習目的の明確化と自覚化
による学習意欲の向上



細野中学校区の取り組みの特徴

教科外活動・日常指導におけるキャリア教育

メディア・コントロールの取り組み
=自己コントロール

見通しを持って、自分の生活を改善していく活動は、自己理解・自己管理能力だけでなく、課題対応能力やキャリアプランニング能力にもつながる

生活習慣の改善

研究業績等（R5年度末～R6年度分）

- 椋木香子「道德教育はキャリア教育にどう応えるかー課題と可能性ー」日本道德教育学会編『道德と教育』342号、113-122頁、2023年3月。（依頼論文・査読あり）

来年度 キャリア教育研究ユニット 研究活動の予定

- 宮崎県のキャリア教育推進事業の連携について、県と協議しながら対応を再開する。
- キャリアパスポートの活用が進んでいないので、附属学校と連携し、研究に取り組んでいく。

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

講座等名： 学校教育

代表者名： 湯田 拓史

プロジェクト名	子どもの貧困と教育研究プロジェクト
プロジェクト研究概要	<p>教員研修用に刊行した拙著『奨学生への指導手引』¹⁾の成果を踏まえつつ、学校教育において就学援助手続きを担う学校事務職員と教員との連携・協働を目指し、宮崎県内でのネットワーク構築とNTTT コラボを通じた研修教材開発と連携事業の実施を行った。</p>
実 施 状 況	<p>教員と学校事務職員との連携のため、宮崎県小中学校事務研究会との連携を進めた。また、日本教育事務学会に入会して、全国の把握と研究推進に関わった。</p> <p>宮崎県小中学校事務研究会とともに、研修ノート²⁾を作成し、そこでケースメソッドの事例を掲載した。</p> <p>NTIS コラボにおいて宮崎県小中学校事務研究会の児玉会長と前田副会長に参加していただき、宮崎県教育委員会事務局教職員課と宮崎県教育研修センターとも連携して、教職大学院院生と事務職員との合同研修を実施した。</p> <p>宮崎県小中学校事務研究会が中心に行っている、宮崎県の学校事務職員育成指標の策定に協力した。</p>
目的の達成度及び成果	<p>当初の計画通りネットワーク構築と研修教材開発を達成した。成果は研修ノート刊行に結実している²⁾。その過程において、授業料無償化政策以降の概念変化や学校事務職員の雇用形態の違いなどの連携を展開するうえでの課題を示した。</p>
今 後 の 課 題	<p>日本教育事務学会において実践報告をする。</p> <p>新しい研修プログラムを開発する。宮崎大学が主催する行政研修として、教員と学校事務職員とが合同参加する研修を企画実践する。</p>
備 考	<p>1) 湯田拓史『奨学生への指導手引』鉾脈社、2022年。</p> <p>2) 湯田拓史『学校事務への理解を深めて「チーム学校」に繋げる研修 ―知っていますか？学校事務職員の役割― 研修ノート』宮崎大学教職大学院教育行政・学校経営分野、2025年2月。</p>

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
 2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

令和4～6年度 宮崎大学教育学部
研究プロジェクト実施報告書
子どもの貧困と教育研究プロジェクト

湯田拓史

これまでに取り組んできたこと

- 1 湯田拓史『奨学生への指導手引』鉾脈社、2022年の刊行。
- 2 上記のテキストを活用した研修プログラムの開発と実践。

宮崎大学が主催する行政研修として「無償化政策に対応した進路指導」を
実践してきた。

2022年度からの取り組み

これまでは、貧困家庭の児童生徒に最も接する機会が多い教員への働きかけを重視してきた。

しかし、実際の貧困児童生徒への「就学援助」手続きでは、学校事務職員の役割が大きい。

学校での貧困児童の把握と対応には、教員だけでは限界があり、教員と学校事務職員との連携が必要不可欠である。

学校事務職の変化

平成29年の学校教育法改正により、学校教育法37条で学校事務職員は「事務をつかさどる」と規定された。「司る(つかさどる)」とは、「職務や役目として担当する」や「コントロールする(管理下に置く)」ことを意味する。法改正前は、決められたことを処理する「従事する」であり、「つかさどる」になったことで一定の責任をもち、自身が担任する事項として主体的に担当することになった。

学校事務職員の育成指標

すでに策定された教員育成指標の学校事務職員版の策定作業が現在進行中である。日本教育事務学会を中心に、各都道府県の学校事務研究会が育成指標の項目を検討している。

→学校事務職員に求められる資質能力として「子どもの貧困への対応」を設定する機会である。

NITSコラボでの実践

2024(令和6)年度のNITSコラボの事業として、『学校事務への理解を深めて「チーム学校」に繋げる研修 ―知っていますか?学校事務職員の役割― 研修ノート』の制作した。

このノートでは、宮崎大学学部生を対象とした「学校事務」に関する意識を尋ねる質問紙調査を実施して、その調査結果報告を基にして、ケースメソッドの事例を作成し掲載した。そして、宮崎県教育委員会事務局教職員課と宮崎県教育研修センター、さらに宮崎県公立小中学校事務研究会のご協力を得て、宮崎大学教職大学院の院生を対象とし、本ノートを活用したNITSコラボ研修を実践した。

ケースメソッドの説明

ケースメソッドとは、アメリカ合衆国のハーバード大学のMBA（経営学修士課程）教育で開発された学びの手法である。ケース（事例）についての問題分析だけではなく、当事者の立場で意思決定を行うことを特徴としている。

ケースメソッドと類似している手法にケーススタディがあるが、こちらには模範解答があるが、ケースメソッドには模範解答がないのが特徴である。模範解答がない分、ケースについて他の人と意見や解法を検討し合うことで、これまでとは違った意見や解法を身につけることをねらいとしている。

ケースメソッドの事例

もし担任しているクラスで生活困窮世帯の児童生徒を見つけたら、どのような手順で対応しますか？

林清吾先生は、全校生徒500人規模の宮崎市立教職大学院中学校に勤務する38歳の男性教諭（理科）です。林先生のクラスである2-2に、黒木田太郎くんという男子中学生がいます。黒木田太郎くんは、宮崎県宮崎市に居住する3人姉弟（弟は中1、妹は小5）の長男です。

黒木田太郎君は明朗快活な生徒で、いつも元気よく挨拶を他の生徒だけでなく教師にもしてきます。そんな彼がある日、とても元気がない様子で終日暗くうつむいていました。林先生は不審に思いましたが、しばらく様子を見ようと判断し、その日は声をかけずにいました。

しかし、黒木田君はその翌日から学校を1週間休んでしまいました。黒木田君が休んでいる間に、林先生のもとに学校事務職員の三木さんから、黒木田君の口座から給食費が引き落とせなかったとの連絡を受けました。林先生はその連絡を受け、もしやと思い、1週間ぶりに黒木田君が登校した日の放課後に黒木田君を呼んで面談することにしました。

面談の結果、黒木田君の家庭は半年前に両親が離婚し、3人の子どもの親権は母親が引き取ったことがわかりました。母親は薬剤師の資格を所持しており、隣の校区のドラッグストアで非正規職員として勤務しているそうです。

ケースメソッドでの問い

問1 この後、林清吾先生が黒木田太郎くんとその保護者に対してどのような助言をすればよいか？

問2 学校内では、どのような対応をすればよいか？

問3 とくに学校事務職員にどのタイミングで相談する？

得られた知見1 授業料無償化政策以降の変化

奨学に関わる項目の説明の変化として、「就学支援」と「就学援助」の違いが挙げられる。

これまでは、生活困窮世帯の子どもの就学に関する支援一般をさす語として就学支援が使われてきたが、「高等学校等就学支援制度」との混同を避けるため、以降「就学援助費」が妥当となる。これは市町村によって、経済的理由により就学困難な、小・中学校に在籍中の児童生徒の保護者に対して、学用品費や給食費などの費用の一部を援助する制度である。

得られた知見2 学校種別の違い

義務教育段階の小学校と中学校の学校事務職員の組織と高等学校の学校事務職員の組織とは大きく異なる。高等学校は、事務長を中心に複数体制であるが、義務教育段階では単独の学校が多い。平成29年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、「共同学校事務室」が登場したことで、単位学校を越えた学校事務の共同実施が始動している。

得られた知見3 雇用形態の違い

根拠となる財源の違いで雇用形態も違う。構成は都道府県によって異なる。

宮崎県は、宮崎県、市町村、PTA会費の3種類である。

宮崎県採用は、行政職一般であり、学校事務職員プロパー（学校事務のみを志願し従事する）ではない。

厳密には、PTA会費で雇用された職員は、PTAがPTA事務を行うために雇用している職員である。事務室で仕事をしているが、地方行政団体の公費で雇用されている事務職員とは異なる業務をしている。

子どもの貧困に即応できる学校組織へ

「チーム学校」の構成として、学校事務職員を中核としたチーム構成を提案する。これは、子どもの貧困対策に即応することを目的とした「チーム」づくりである。

役割分担の明確化をもたらし、教員の負担軽減にもつながる。

今後の課題

- 1 日本教育事務学会において実践報告をする。
- 2 新しい研修プログラムを開発する。宮崎大学が主催する行政研修として、教員と学校事務職員とが合同参加する研修を企画実践する。

令和4～6年度 宮崎大学教育学部 研究プロジェクト実施報告書

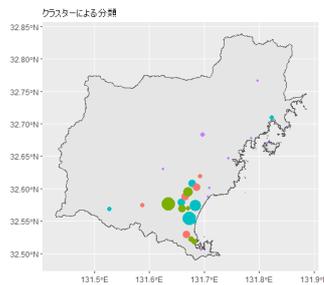
講座等名： 宮崎大学教育学部

代表者名： 小林 博典

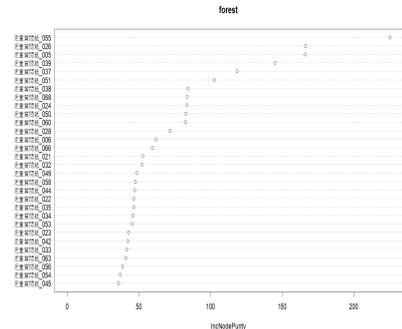
プロジェクト名	学力調査分析・データ解析研究プロジェクト
プロジェクト研究概要	<p>本プロジェクトは、全国学力・学習状況調査や宮崎県の学力調査などのさまざまな統計データを活かし、教育方法の改善や教育施策の効果の検証を行うことを目的とした。主な取組は、次の二つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 延岡市プロジェクト 延岡市教育委員会が展開してきた「陰山メソッド」の効果分析を行うとともに、要請のあった中学校区の学校支援を実施した。 2 「ひむかの学び」プロジェクト 宮崎県教育委員会の依頼を受け、全国学力・学習状況調査およびみやざき小中学校学習状況調査の結果について、生徒質問紙調査と結び付けた分析を行った。
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 延岡市プロジェクト <ol style="list-style-type: none"> ① 学校の取組と学力調査の関連 全国学力・学習状況調査の成績がアップしている学校と、そうでない学校を比較して、その違いを明らかにした。 ② 陰山メソッドの効果と教員の意識との関連 陰山メソッドの効果を検討して、効果の見える学校と、そうでない学校の教員の意識の違いをK-means 法やマンホイットニーのU検定などを用いて分析した。 ③ 陰山メソッドと全国学力・学習状況調査の結果との関連 100 マス計算のデータと全国学力・学習状況調査の結果の関連について、3分以内通過率と2分以内通過率それぞれについて、国語、算数、理科の平均正答割合との相関について分析した。 ④ 延岡市内A中学校区の学校支援 要請のあった中学校区において、生徒の取り組みを観察し、生徒や教員へのヒアリングを実施。その結果を基に研修資料を作成し、学校へ提供した。 2 「ひむかの学び」プロジェクト 宮崎県教育委員会の義務教育課と連携し、全国学力・学習状況調査およびみやざき小中学校学習状況調査のデータ分析を生徒質問紙調査と結び付けて実施した。機械学習の一手法であるランダムフォレスト法を用い、学校種や教科ごとに正答率の予測モデルを構築し、関連の大きい項目を抽出した。
目的の達成度及び成果	<p>分析結果を各自治体へフィードバックし、教育方法の改善や教育施策の効果検証に役立つ根拠資料を提供できた。</p>
今後の課題	<p>各学校の授業改善をどのように進めていくかについての具体的な議論は、今後の課題として引き続き検討が必要である。</p>
備考	<p>宮崎県教育委員会の「ひむかの学び」プロジェクトは、3年計画の2年目が終了したところであり、次年度も継続予定である。</p>

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記載してください。
2. 必要に応じて頁数は、増やして頂いて構いません。

学力調査分析・データ解 析研究プロジェクト報告



宮崎大学教育学部
(代表) 小林 博典



プロジェクトの目的

- 全国学力学習状況調査や宮崎県の学力調査などのさまざまな統計データを活かし、教育方法の改善や教育施策の効果の検証などを行う

これまでの主な取り組み

- 延岡市プロジェクト
陰山メソッドの効果分析
第2ステージ（中学校区の学校支援）
- 宮崎県教育委員会「ひむかの学び」データ分析

プロジェクトチーム

延岡市プロジェクト

藤井 良宜
竹内 元
尾之上 高哉
小林 博典

「ひむかの学び」プロジェクト

藤井 良宜
尾之上 高哉
添田 佳伸
永吉 寛行
向江 頼二
中村 大輝
盛満 弥生

延岡市プロジェクト（延岡市教育委員会との連携）

主な取り組み

1. 学校の取組と学力調査の関連

全国学力・学習状況調査の成績がアップしている学校とそうでない学校を比較して、その違いを明らかにする

2. 陰山メソッドの効果と教員の意識との関連

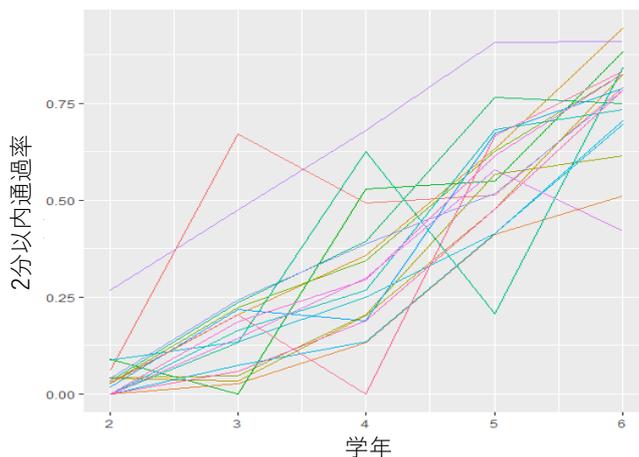
陰山メソッドの効果を検討して、効果の見える学校とそうでない学校での教員の意識の違いを分析した

3. 陰山メソッドと全国学力調査の結果との関連

4. 延岡市内A中学校区の学校支援

2. 陰山メソッドの効果と教員の意識との関連

- 延岡市の小学校を対象に、学校ごとに、各学年の2分以内通過率を折れ線グラフに表す。

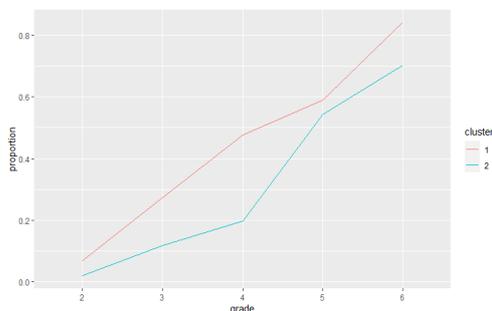


ただし、通過率の精度を考えて、各学年の児童数がすべて10人以上の学校に限定した。

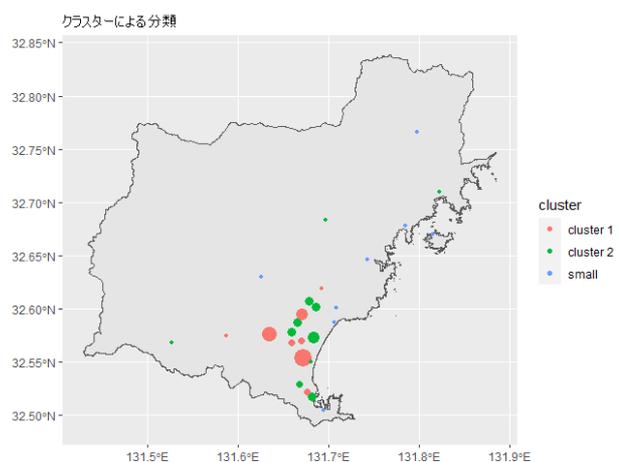
結果に基づいて、統計的な手法を用いて学校を大きく2つに分類した。

K-means法で分類

Kはクラスターの数、meanは平均を表す。ここでは、 $K=2$ として、2つのクラスターを、2つの平均値のどちらに近いが、という観点で分類した。



上の図は、それぞれのクラスターの平均的な値を示している。



上の図は、延岡市の地図上に、それぞれのクラスターを児童生徒数に対応させてバブルで示している。

2つに分類した学校で、教員の意識に違いがあるか？

教員意識調査を実施。

各質問項目について、クラスター1の学校に所属する教員(125人)とクラスター2の学校に所属する教員(170人)の回答の間に、違いがあるのかどうかを、統計的な検定を使って判断した。

質問項目	グループ1 (N=125)		グループ2 (N=170)		マンホイットニーのU検定		
	M	SD	M	SD	U	p	有意確率
1 私は、陰山メソッドの目的が児童の「集中力向上」と「脳の活性化」であることを理解している。	4.34	0.69	4.23	0.83	10051.50	n.s.	0.387
2 私は、その目的達成に向けて陰山メソッドは意味があると思っている。	3.88	0.73	3.65	0.93	9194.00	*	0.032
3 陰山メソッドの取組は、訓練的な要素が強いと感じている。	4.15	0.79	4.01	0.83	9621.50	n.s.	0.133
4 私は、学校全体で陰山メソッドを実施することが効果的だと感じている。	3.74	1.02	3.47	1.14	9217.00	*	0.044
5 陰山メソッドの実施方法は、担任でなくても実施できると感じている。	3.94	0.92	3.92	0.94	10540.50	n.s.	0.902
6 陰山メソッドの実施方法は、全校一斉にやらなければ効果はないと感じている。	3.69	1.01	3.63	1.10	10341.50	n.s.	0.684
7 陰山メソッドの実施方法は、学校ごとに方法や時間帯が異なってもよいと感じている。	3.45	1.06	3.65	1.02	9614.00	n.s.	0.146
8 陰山メソッドの実施方法は、全校で考えを統一して実施した方が、より効果があると感じている。	4.33	0.81	4.12	0.95	9401.50	n.s.	0.068
9 私は、陰山メソッドの全市導入について意義があると感じている。	3.03	0.97	2.93	1.08	9898.50	n.s.	0.293
10 陰山メソッドの取組で、生徒指導上の問題が減っていると感じている。	2.22	0.90	2.15	0.81	10041.00	n.s.	0.392

結果（関連が強い項目）

質問内容	グループ1 (N=125)		グループ2 (N=170)		マンホイットニーのU検定		
	M	SD	M	SD	U	p	有意確率
3 2 陰山メソッドの取組が、子どもの計算力の向上に寄与していると感じている。	3.82	0.80	3.39	0.87	7878.00	***	0.000
3 0 私は、陰山メソッド（100ます計算）により、児童の脳の回転数を上昇させる、集中力を向上させるなどの効果につながっていると感じている。	4.03	0.75	3.72	0.88	8556.50	**	0.002
2 2 陰山メソッドの実施方法はクラブやタイマーなどの教具を学校で統一すると効果があると感じている。	3.67	0.99	3.35	0.99	8547.50	**	0.003
1 9 私の学校は、陰山メソッドの取組が組織的に実施されていると感じている。	4.18	0.87	3.85	1.03	8674.00	**	0.004
2 3 私の学校の保護者は、陰山メソッドの取組について関心が高いと感じている。	2.71	0.97	2.41	0.86	8658.00	**	0.004
4 3 陰山メソッドの取組が、子どもの文字の乱れにつながっていると感じている。	3.18	0.84	2.91	0.93	8684.00	**	0.004
2 5 私は、陰山メソッド（音読）の実施方法を理解している。	4.15	0.69	3.90	0.80	8857.50	**	0.005
4 7 あなたの学級の児童は、陰山メソッド導入前に比べて学習に集中して取り組むようになってきていると感じている。	3.15	0.76	2.91	0.74	8992.50	**	0.008
5 1 あなたの学級の児童は、陰山メソッドの取組により、学力も向上したと実感している。	2.94	0.80	2.72	0.84	9065.50	*	0.016
3 5 私は、陰山メソッド（新出漢字前倒し指導）の実施方法を理解している。	3.94	0.85	3.71	0.93	9136.00	*	0.025
1 6 陰山メソッドの取組で、学習中の時間管理が容易にできるようになってきていると感じている。	2.74	0.92	2.51	0.91	9136.50	*	0.030
4 1 陰山メソッドの取組が、子どもの他教科の読解にもよい影響を与えていると感じている。	2.96	0.82	2.74	0.87	9190.50	*	0.030
2 私は、その目的達成に向けて陰山メソッドは意味があると思っている。	3.88	0.73	3.65	0.93	9194.00	*	0.032
3 4 私は、陰山メソッド（新出漢字前倒し指導）には、素早く漢字を書いたり覚えたりすることや集中して練習することの重要性を学べるなどの効果があることを理解している。	3.40	0.98	3.17	1.05	9141.00	*	0.032
1 8 陰山メソッドの教材が、発展的学習や個別指導の時間確保につながっていると感じている。	2.60	0.93	2.39	0.92	9158.00	*	0.033
1 7 陰山メソッドの取組が、学習内容の定着により影響を与えていると感じている。	3.21	0.80	3.02	0.91	9248.00	*	0.042
4 私は、学校全体で陰山メソッドを実施することが効果的だと感じている。	3.74	1.02	3.47	1.14	9217.00	*	0.044
3 8 陰山メソッドの取組が、子どもの漢字の習得に寄与していると感じている。	3.26	0.97	3.08	0.91	9258.50	*	0.046

まとめ

- 計算能力の向上と教員の意識の間には、関連のある項目がかなり多くみられた。
- 内容としては、**効果があると感じている**ことや**学校として取り組むこと**に意味を感じている項目が多かった。
- 今回は、結果の変数として、陰山メソッド実施状況調査の結果を用いた。あくまで、**百ます計算の計算能力**での比較である。
- 陰山メソッドが**他の学習に効果があるかどうかを調べたわけではない。**

3. 陰山メソッドと全国学力調査の結果との関連

- 目的
100マス計算のデータと全国学力調査の結果の関連を見る
- 用いるデータ
 - 100マス計算のデータ
令和2年10月, 令和3年2月, 令和3年10月, 令和4年2月、令和4年10月
3分以内通過率、2分以内通過率
 - 全国学力・学習状況調査のデータ
国語、算数、理科の**平均正答割合**
 - 基本的には、**令和4年度の6年生のデータ**を用いた

ここでは、同じ児童を追跡している

100マス計算データ

3分以内通過率

6年生	0~59秒		1分00秒~1分29秒		1分30秒~1分59秒		2分00秒~2分29秒		2分30秒~2分59秒		3分台		4分台		5分以上		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学校名非表示	7	11%	24	39%	16	26%	7	11%	7	11%	0	0%	1	2%	0	0%	62	102%
	6	10%	19	32%	18	30%	13	22%	4	7%	0	0%	0	0%	0	0%	60	100%
	6	9%	30	45%	19	28%	9	13%	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%	67	100%
	2	6%	9	27%	11	33%	6	18%	3	9%	2	6%	0	0%	0	0%	33	100%

元データは、100マス計算終了時間の時間区分別の人数



3分以内通過率と2分以内通過率

100マス計算データ

2分以内通過率

6年生	0~59秒		1分00秒~1分29秒		1分30秒~1分59秒		2分00秒~2分29秒		2分30秒~2分59秒		3分台		4分台		5分以上		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学校名非表示	7	11%	24	39%	16	26%	7	11%	7	11%	0	0%	1	2%	0	0%	62	102%
	6	10%	19	32%	18	30%	13	22%	4	7%	0	0%	0	0%	0	0%	60	100%
	6	9%	30	45%	19	28%	9	13%	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%	67	100%
	2	6%	9	27%	11	33%	6	18%	3	9%	2	6%	0	0%	0	0%	33	100%

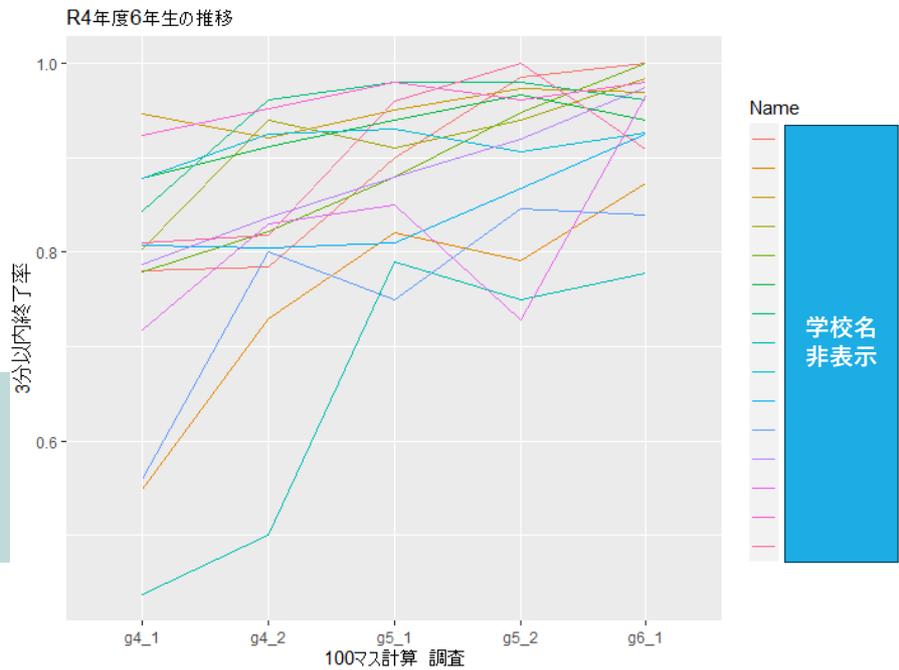
元データは、100マス計算終了時間の時間区分別の人数



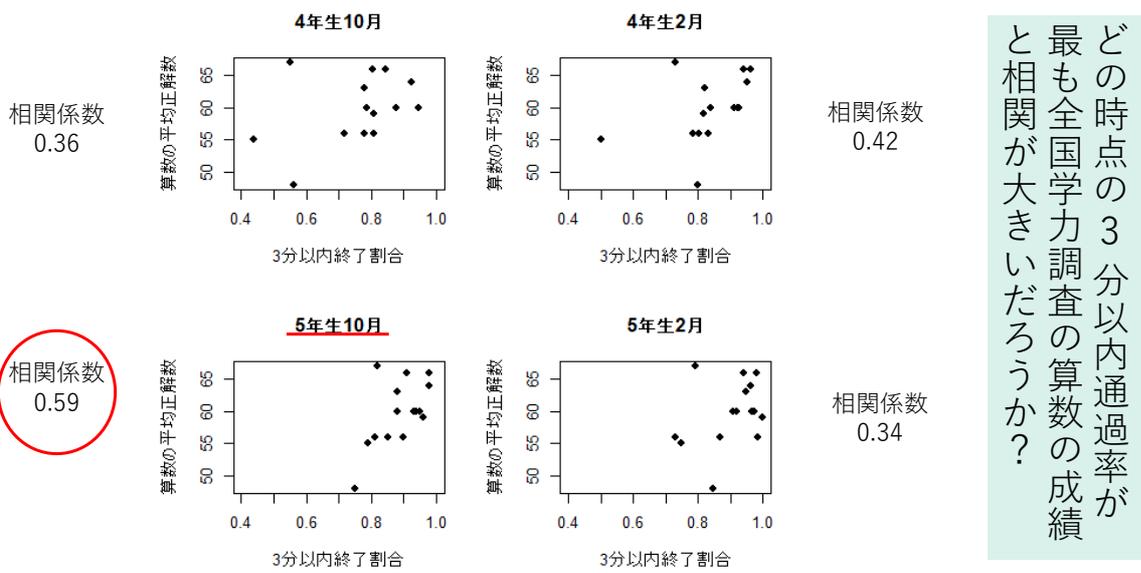
3分以内通過率と2分以内通過率

3分以内通過率の変化の状況を見てみよう。

5年生、6年生のデータでは、学校ごとの違いは小さくなっていく

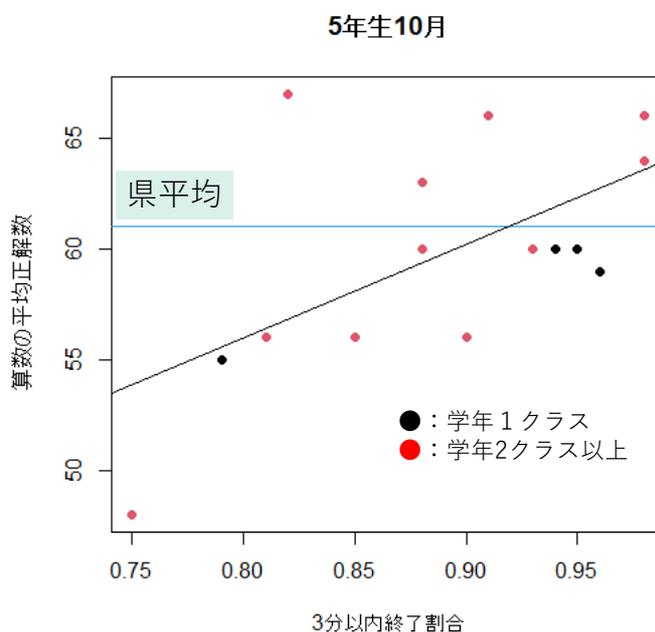


全国学力調査の算数の平均正答割合との関連



どの時点の3分以内通過率が最も全国学力調査の算数の成績と相関が大きいだろうか？

5年生の10月の データと算数の 相関

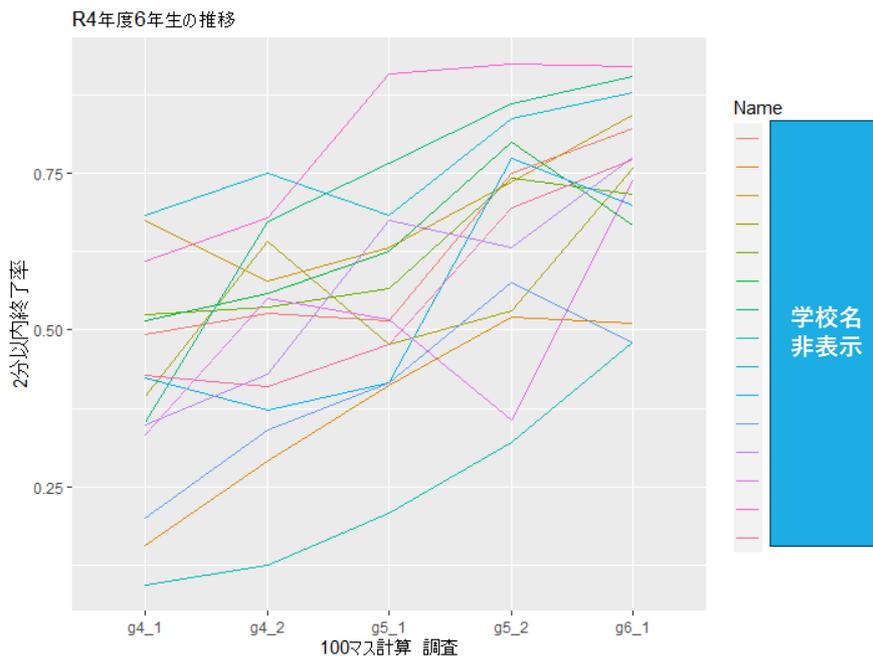


相関係数（3分終了割合と全国学力調 査）

	国語	算数	理科
4年生10月	0.259	0.375	0.402
4年生2月	0.415	0.425	0.402
5年生10月	0.544	0.596	0.527
5年生2月	0.343	0.340	0.234
6年生10月	0.364	0.445	0.347

2分以内通過率の変化の状況

3分以内通過率と比べて全体的に割合が小さくなっているが、3つの小学校は、他に比べてかなり低い傾向がみられる



相関係数（2分終了割合）

	国語	算数	理科
4年生 10月	0.138	0.235	0.341
4年生 2月	0.491	0.444	0.546
5年生 10月	0.399	0.462	0.537
5年生 2月	0.224	0.303	0.295
6年生 10月	0.352	0.421	0.564

まとめ

1. 学校単位の集計データを用いると、5年生の10月の100マス計算の成績と全国学力調査の成績の間には、正の相関がある。（算数だけでなく、国語や理科も）
2. 2分以内通過率では、理科の成績との相関が高い。
3. 4年生の2月の100マス計算の2分以内通過率が高い学校の方が、全体的にみると全国学力調査の成績が良い。

4. 中学校区の学校支援

- 目的 延岡市A中学校区に対する支援活動

- 方法

指導助言といったコンサルティング機能ではなく、教職員や生徒が検討するための資料提供といったシンクタンク機能を大学に求められたもの

学校における生徒の取り組みを観察し、生徒及び教員にヒアリングするとともに、研修資料を作成するとともに、A中学校が生徒と共有している「授業の心構え」をどう書き替えることができるかを学校に提示する

4. 中学校区の学校支援

- 学校訪問日

8月9日（金）、9月12日（木）、10月29日（火）
11月5日（火）、11月7日（木）、11月28日（木）

- 延岡市教育委員会と学校との協議

7月22日（月）、8月26日（月）

- 結果

A中学校の学習委員会を活性化させ、「ひなたの学び」の実現に向けて、実態把握の手立ての工夫に本学部の支援は位置づいた。生徒が第三者に匿名で語ることで、生徒の率直な考えが聴かれ、今後の授業改善の方向性が見えたと評価された。

「ひむかの学び」プロジェクト

宮崎県教育委員会 義務教育課 との連携

「未来につなげ、学びのバトン！宮崎の授業改善推進事業」
3年計画の2年目

主な取り組み

- 子どもの学び研究開発指定校の支援
指定校の国語と算数・数学の学力の状況を把握し、教科教育的な視点から助言
- **全国学力調査結果のデータ分析**
生徒質問紙調査と結び付けた分析

学力調査の正答数を児童質問紙で予測する

23

全国学テ2024 **小学校国語**の分析

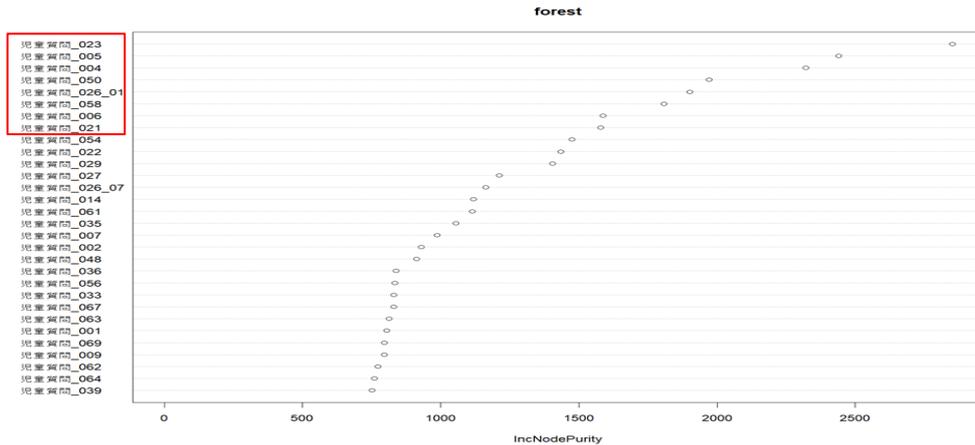
ランダムフォレスト法を使った分析

児童質問紙の項目が、国語の正答数にどの程度影響するのか？

機械学習の手法の1つであるランダムフォレストを用いて正答率の予測モデルを構成

変数重要度を算出→**右に行くほど影響力が大きい**

国語の全体の正答率の分散の23.24%を説明できるモデルが完成



学力調査の正答数を児童質問紙で予測する

24

全国学テ2024 **小学校算数**の分析

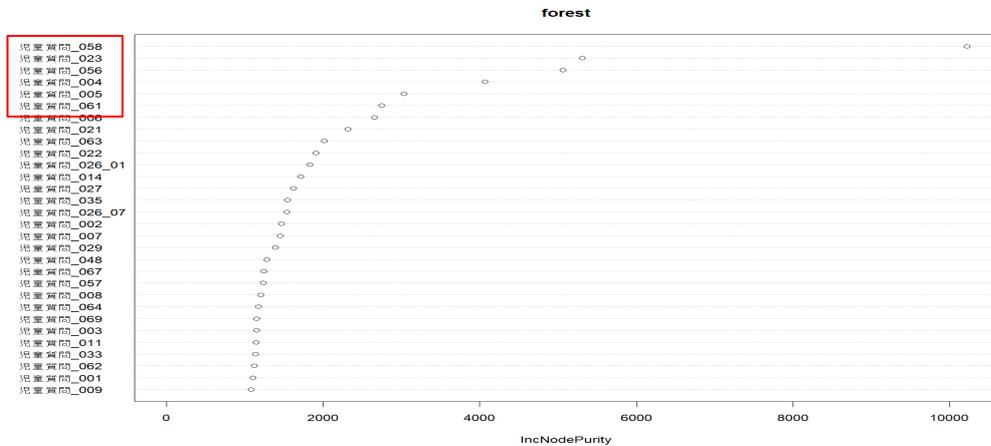
ランダムフォレスト法を使った分析

児童質問紙の項目が、国語の正答数にどの程度影響するのか？

機械学習の手法の1つであるランダムフォレストを用いて正答率の予測モデルを構成

変数重要度を算出→**右に行くほど影響力が大きい**

算数の全体の正答率の分散の32.07%を説明できるモデルが完成



小学校 影響が大きかった項目は？

25

国語	算数
(23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除きます）。	(52) 算数の授業の内容はよく分かる
(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。	(23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除きます）。
(4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。	(56) 算数の勉強は好きだ
(50) 国語の授業の内容はよく分かる	(4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。
(26) 放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いですか。 1 家で勉強や読書をしている	(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。
(58) 算数の授業の内容はよく分かる	(61) 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える
(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。	(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。

まとめ（小学校）

- 小学校国語の正答率
 普段の国語の授業の理解（Q44）、算数の授業の理解（Q52）、生活習慣（Q4, Q5, Q6）、学習時間（Q21, Q26）、家庭の経済状況（Q23）が関連することが示された。
- 小学校算数の正答率
 普段の算数の授業の取り組みや動機づけ（Q52, Q56, Q61）、生活習慣（Q4, Q5, Q6）、家庭の経済状況（Q23）が関連することが示された。
- これらは相関関係であって因果関係ではない点に留意する必要あり

学力調査の正答数を児童質問紙で予測する

27

全国学テ2024 **中学校国語**の分析

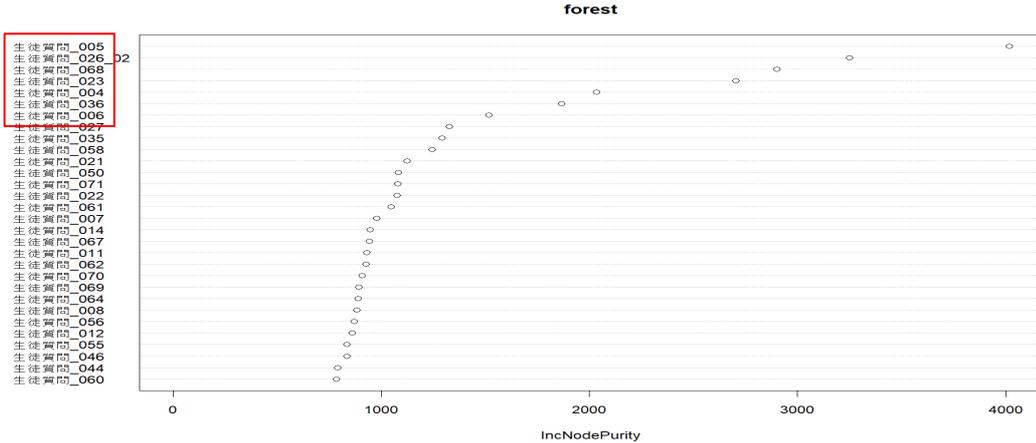
ランダムフォレスト法を使った分析

児童質問紙の項目が、国語の正答数にどの程度影響するのか？

機械学習の手法の1つであるランダムフォレストを用いて正答率の予測モデルを構成

変数重要度を算出→右に行くほど影響力が大きい

国語の全体の正答率の分散の27.52%を説明できるモデルが完成



学力調査の正答数を児童質問紙で予測する

28

全国学テ2024 **中学校数学**の分析

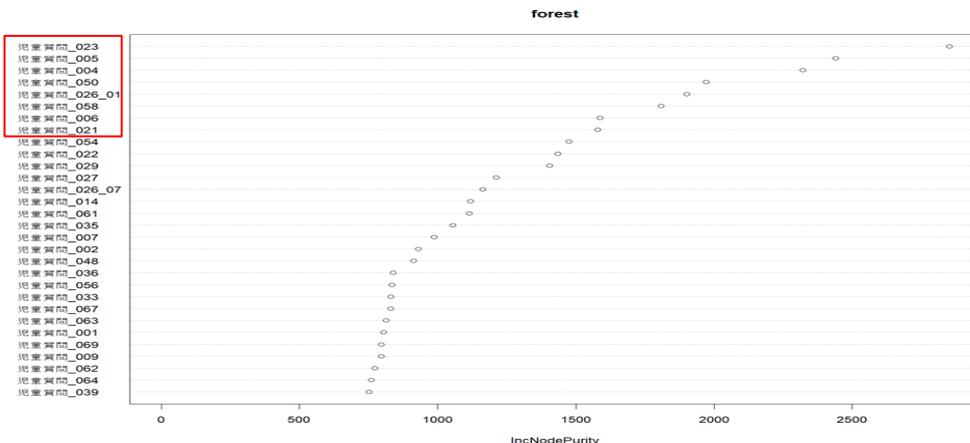
ランダムフォレスト法を使った分析

児童質問紙の項目が、国語の正答数にどの程度影響するのか？

機械学習の手法の1つであるランダムフォレストを用いて正答率の予測モデルを構成

変数重要度を算出→右に行くほど影響力が大きい

数学の全体の正答率の分散の37.95%を説明できるモデルが完成



中学校 影響が大きかった項目は？

29

国語	数学
(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。	(58) 数学の授業の内容はよく分かる
(26) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。 2 家で勉強や読書をしている	(56) 数学の勉強は好きだ
(62) 英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う	(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。
(23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）。	(61) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える
(4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。	(23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）。
(36) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	(36) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

まとめ（中学校）

- 中学校国語の正答率
国語の正答率には、言語活動（Q62, Q36）、生活習慣（Q4, Q5）、学習時間（Q26）、家庭の経済状況（Q23）が関連することが示された。
- 中学校数学の正答率
普段の数学の授業の取り組みや動機づけ（Q56, Q58, Q61）、生活習慣（Q5）、家庭の経済状況（Q23）が関連することが示された。
- これらは相関関係であって因果関係ではない点に留意する必要あり

今後の計画

- **延岡プロジェクト**

- 指定校（中学校）の変容を追跡する

- **「ひむかの学び」プロジェクト**

- 3年目に向けた取組として、データ分析を授業改善にどのようなにつなげていくのか